

# 2014年 特別栽培省農薬あきさかり

■ 高付加価値米の生産と低コストへの挑戦 ■

## 27年度 特別栽培省農薬あきさかり

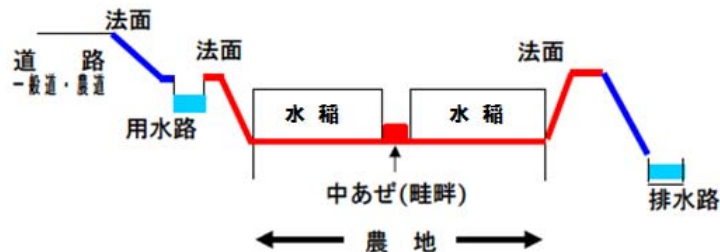
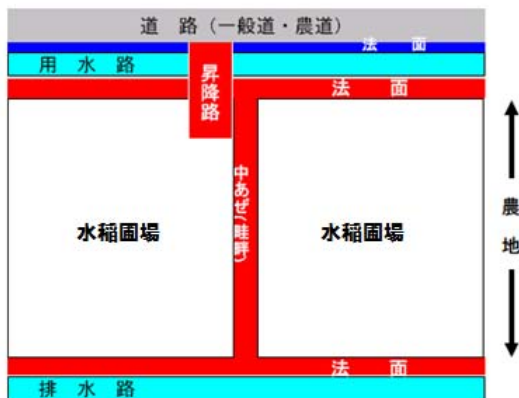
目標面積 140ha		単位:1俵あたり	
品種 \ 等級	1等	2等	
省農薬あきさかり	14,000円 概算	13,000円 概算	

通常あきさかり比1.9倍の内金単価 約58,000円/10a増  
薬剤費の8割 約15,000円/10a減

### 取組要件

1. 福井県認証区分③の無化学肥料(有機肥料しか使わない)栽培
2. 基肥、穂肥だけでなく苗箱の床土も有機肥料入りのものを使用する必要がある
3. 農薬使用成分は認証区分③の10成分(20成分比5割減)より少ない4成分(20成分比8割減) ※指定した除草剤1回のみ
4. 苗箱への殺菌剤(ダコニール)の灌注やイネミスゾウムシ、イネドロオイムシ、いもち病の予防剤(スタウトダントツ剤)の散布ができないため、耕種的防除を実施する
5. 本田では除草剤が1度のみ使用できるため、一番効果的な散布が求められる
6. 収穫までに数回は草刈り機による畦畔の除草と本田内のとりこぼし雑草の除草が必要 ※放任栽培は×、適正な肥培管理を
7. 実需者からは胴割粒や斑点粒のクレームが多く、色彩選別機による調整が必須

# ポイント① 畦畔等の草刈り



# ポイント② 耕種的病害防除 (ケイ酸補給)

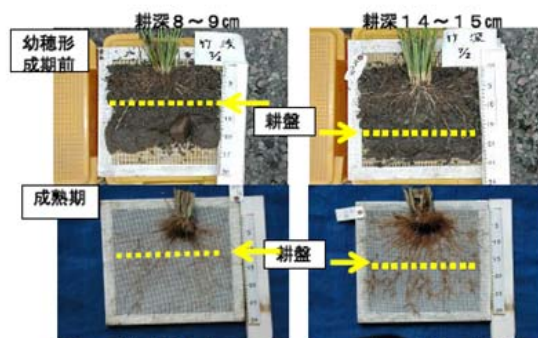


図2 耕深と根の張り (品種: コシヒカリ 土壌: 埴壤土)

## 深耕の効果

1. 根の張りがよくなる
2. 収量・品質が高まる

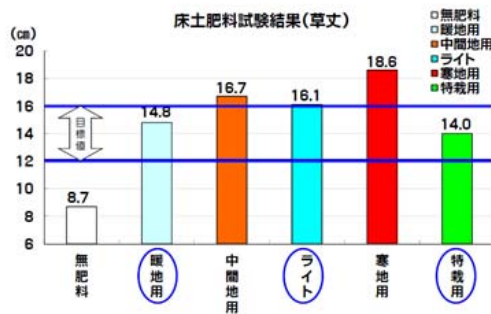
## ケイ酸の補給効果

1. 登熟が向上し、米の粒張りや品質が良くなる
2. 病害虫に対する抵抗性が高まる
3. 倒伏に強くなる
4. イネのストレス軽減に効果がある

# ポイント③ 有機肥料入り床土（健苗育成）

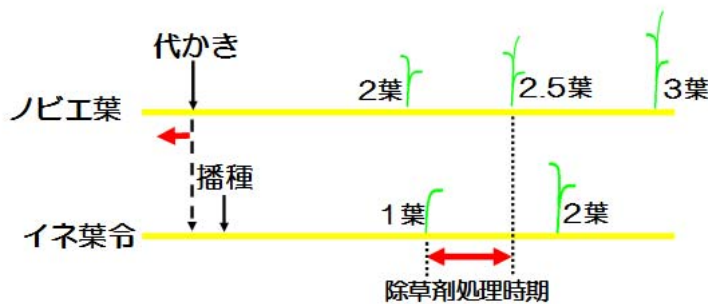
## 試験結果

	NO	床土名	1階あたり窒素量	試験結果			判定
				草丈 (cm)	葉色 (SPAD値)	根重 (5cm×5cm/g)	
多灌水・無換気	①	無肥料	0g	9.5	7.6	0.215	
	②	緩地用(化学肥)	0.76g	16.2	24.4	0.230	
	③	中間地用(化学肥)	1.2~1.3g	23.1	27.8	0.160	
	④	ライト緩地用(化学肥)	1.4g	20.8	26.3	0.430	
	⑤	寒地用(化学肥)	1.6g	21.5	27.6	0.155	
	⑥	特栽培(有機肥)	2.25g(1.2g)	15.5	24.7	0.190	
		平均		17.8	23.1	0.230	
少灌水・換気	⑦	無肥料	0g	8.7	5.0	0.275	×
	⑧	緩地用(化学肥)	0.76g	14.8	20.3	0.300	○
	⑨	中間地用(化学肥)	1.2~1.3g	16.7	28.1	0.245	△
	⑩	ライト緩地用(化学肥)	1.4g	16.1	26.8	0.400	◎
	⑪	寒地用(化学肥)	1.6g	18.6	25.6	0.205	△
	⑫	特栽培(有機肥)	2.25g(1.2g)	14.0	23.3	0.400	◎
		平均		14.8	21.5	0.304	



従来品よりも有機入り床土のほうが◎

# ポイント④ 除草効果の長期持続



ノビエは代かき後から伸び始め2週間で2.5葉期に成長

★代かきから田植えまでの期間を空け過ぎない

一度だけ使用する除草剤をできるだけ遅く時期を逸しないように

★雑草の生育を確認しながら散布

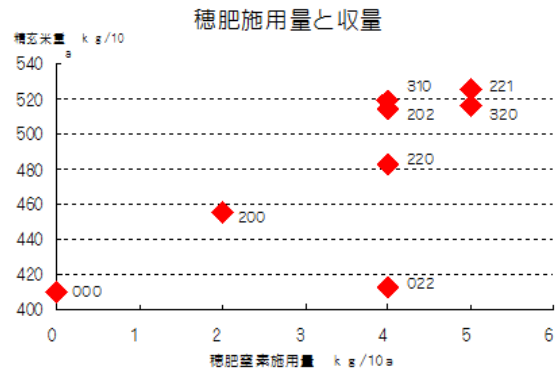
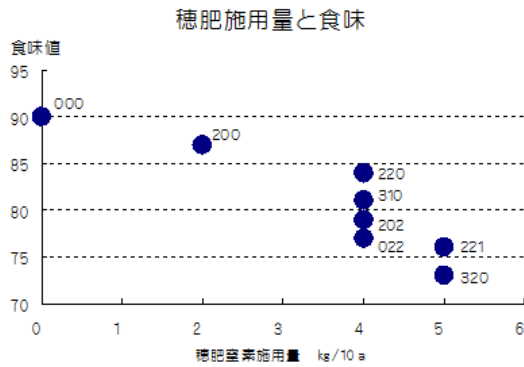


## 👉 **ポイント⑤ 収量確保と白未熟粒防止**

### ◆食味・収量と穂肥の関係

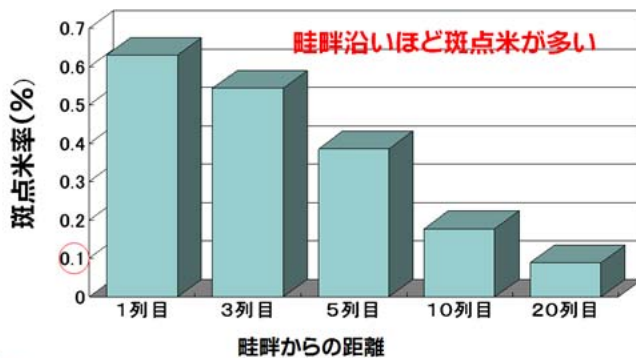
下のグラフは左から右の数値へ、1回目 出穂18日前、2回目 出穂9～11日前、3回目 出穂4日後に施用した10aあたりの窒素量を示しています。

221の場合 出穂18日前 2kg 出穂9～11日前 2kg 出穂4日後 1kg



## 👉 **ポイント⑥ 耕種的害虫防除（畦畔除草）**

### 水田内での斑点米の発生分布



### ◆カメムシは稲そのものよりもイネ科の雑草を好む

斑点米カメムシ類はイネ科植物を好み、イネ科植物が生えているところに生息しています。水田周辺のカメムシの密度を低くするためには、イネ科雑草を出穂させない管理が必要となります。